

歌が生まれる

校歌制作レポート 第9回



イラスト：山崎奈緒

() を外して先に進もう

ようやく「作曲」らしい作業が始まり、歌い出しとしてほぼ確定かな？ と思える、次のフレーズを置くことができた、と、前回はこちらまででした。



第1回のレポートで私は、この歌の主人公は「上田短大をウチの学校と思っている人」と考えましたが、ここに至ってそれは「この学校で生き生きと心を動かして生きる命そのもの」と再定義されたようです。それでいくことにしましょう。

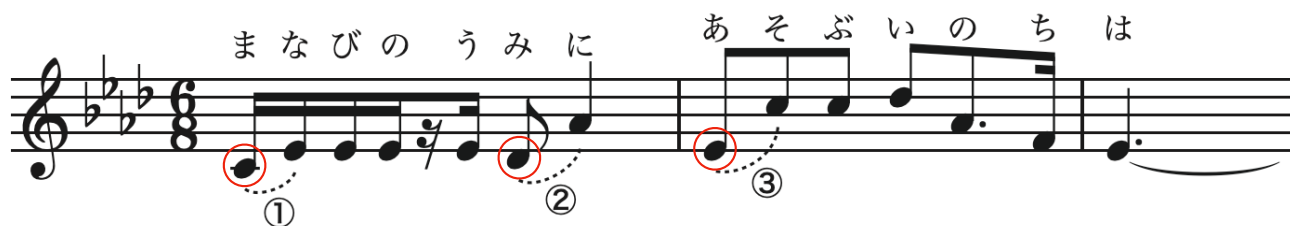
では、その主人公はどうするか？ それを考えるとカッコつきの助詞が気になります。は・に・を・の・が・と… どれを選ぶかで後続がどうにでも変わるので迷うところですが、ここは直感にしたがい、「は」とすることにして先に進みます。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 8月23日 レポート

未来と自然を歌ってみる



この冒頭案では、リクエストの多かった「夢・未来」のイメージを ① - ② - ③ と時間の経過にしたがって拡大する跳躍音程（点線弧）に、歩みや前進のイメージを赤丸の3音の動き（等時間隔の順次上行）に重ねています。これで充分か？ と思いましたが、何かちょっと弱いし、分かりにくいかもしれない。そこで、「夢・未来」を実際にコトバとして表現する歌詞を上掲のフレーズの次に置いてみることにして、**学生の姿パッチワーク**（第6回参照）を見直します。➡ **夢を抱き／夢を育み／夢を叶え／未来を変え／未来を創る**

熟語は解(ほど)く、という方針にしたがい、まず未来を「未だ来ない」としましょう。未だ来ていないものには触ることができないので変えられません。また、創ってしまったら、現実としてそこに「在る」ことになるので、それはもう未来ではない。でも、思うこと、考えることはできる。…「想像」か？ あ、だめだ、また熟語だ。「問う」ならいけるか？ 「未だ来ない」を問う？ 変だね。「未だ見ぬ」を？ もう一息、未だ見ぬ何を問うのか？ 「明日」はどうだろう？...というわけで、こうしてみました。

➡ **学びの海に遊ぶ命は [?]未だ見ぬ明日を問う**

んんん。悪くはないけれど、ちょっと寸詰まりですね。

？ のところにもう一節欲しい。ではここに「問う相手」を描こう。自分に、では息が詰まりそうだし、他人に訊くのは無責任だ。自然はどうだろうか？ 山・緑・風・空...etc. とても多くの人から寄せられた言葉。はい、それにしてみましよう。たとえばこんな風に。（あくまでも暫定的な試案です）

